

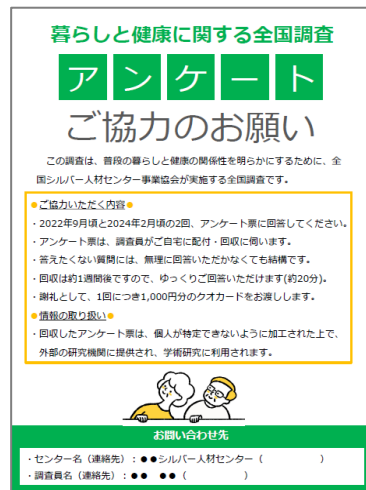
本冊子はアンケート調査(1回目)にご協力いただいた皆様にお配りしています。

暮らしと健康に関する全国調査 ご協力の御礼と初回調査の要約

この度は、全国シルバー人材センター事業協会が実施した「暮らしと健康に関する全国調査」にご協力いただき、ありがとうございました。

● 調査の概要 ●

- ・ シニアの方の「暮らしと健康の関係」を明らかにするために、2回の調査を行います。
- ・ 1回目調査は2022年10-11月に実施しました。
- ・ 無記名のアンケート調査(約20分)でした。
- ・ アンケート票の配布・回収は、シルバー人材センターの会員が行いました。



2回目調査に向けたご案内

次回の調査は、**2024年4月頃**を予定しています。

当初は、2回目調査は「2024年2月頃」とご案内しておりましたが、変更させていただきます。何卒ご了承ください。

以下に該当し、2回目調査に参加できない場合は、お問い合わせ先まで、ご連絡をお願いいたします。ご家族から連絡いただいても問題ありません。

[2回目調査に参加できない理由：転居・入院・体調の急変など]

<2回目調査についてのお問い合わせ先>

いなべ市シルバー人材センター

電話番号：0594-84-1800 (受付時間：平日 8:30～17:15)

担当職員：川島 忍

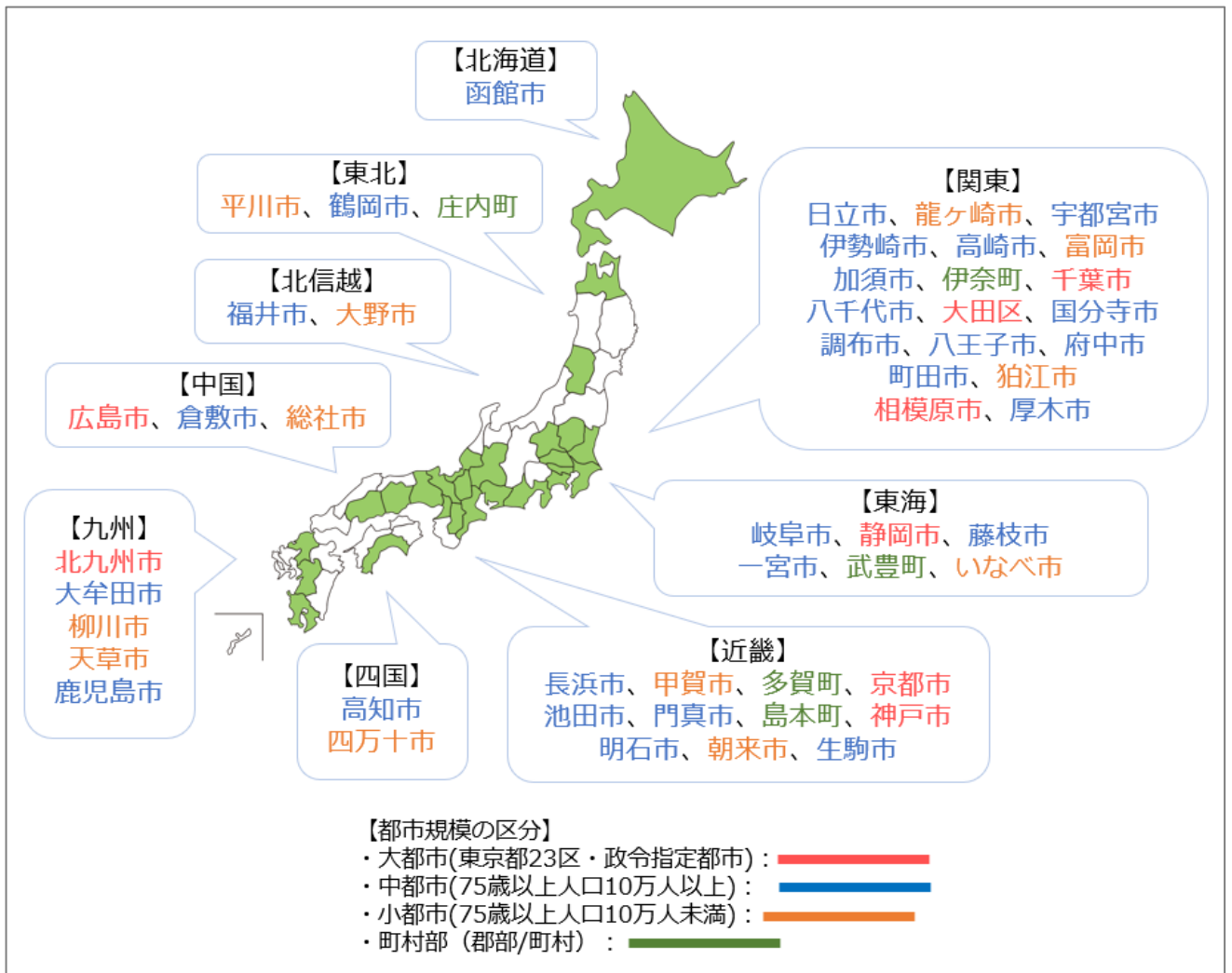
1回目アンケート調査の結果

対象地域と回収率

地域と都市規模別に、全国から選定した52カ所の市区町村に在住の75～84歳の方に、アンケート調査を実施しました。
回収数(率)は、1,392件(95.0%)と非常に高い値でした。

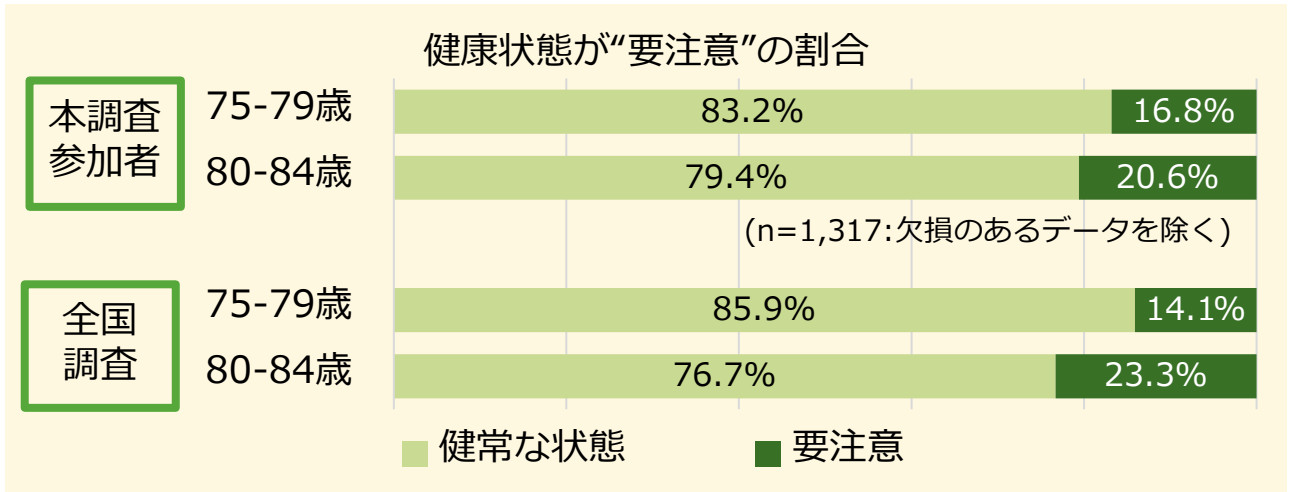


ご協力いただいた市区町村



結果①参加者の健康状態

- ✓ 健康状態が要注意¹⁾の人は75-79歳で16.8%、80-84歳で20.6%でした。
- ✓ 他の全国調査結果²⁾と比べると、本調査参加者の80-84歳のほうが、要注意の割合が低かったです。

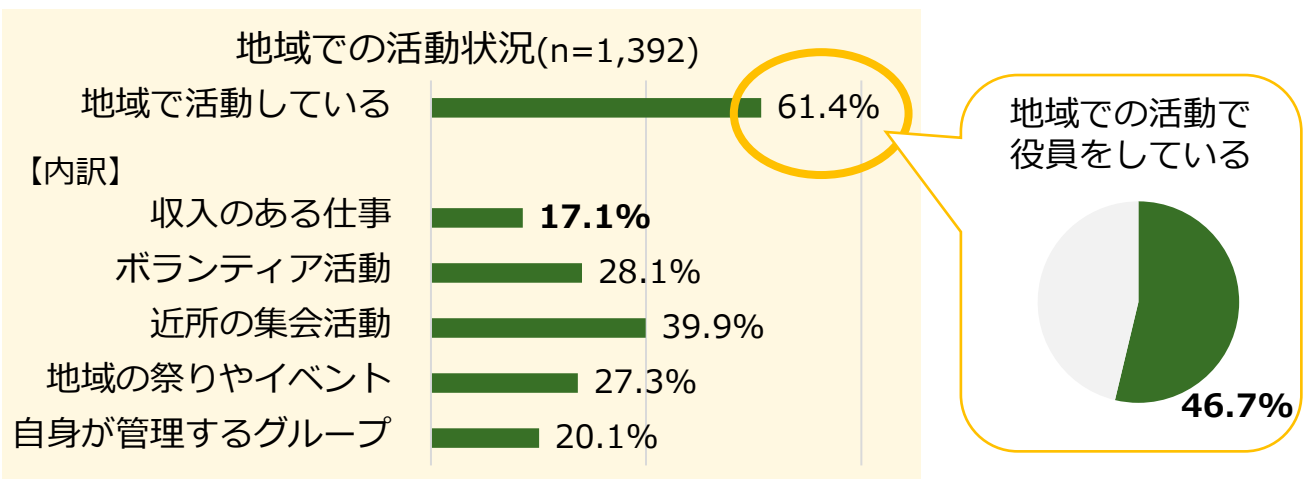


🏠 健康状態が要注意とは？：

「フレイル」と呼ばれる状態で、健康な状態と要介護状態の間ですが、適切な治療や予防で健康な状態に戻ることができる段階でもあります。

結果②地域での活動状況

- ✓ 61.4%が、「地域で活動している」人でした。
- ✓ そのうち、46.7%が役員を務め、リーダーシップを発揮していました。
- ✓ 「収入のある仕事」17.1%は、他の調査10.6%³⁾よりも高い値でした。



結果③近所付き合いの状況

- ✓ 近所に「あいさつをする人」「道端で話をする人」が「いる」と回答した人は、それぞれ91.6%と89.5%と、とても多かったです。
- ✓ これらの交流に比べると、「互いに家を行き来する人」がいる人は、少ない傾向にありました。



あいさつをする人が
「いる」

91.6%



道端で話をする人が
「いる」

89.5%



互いに家を行き来する人が
「いる」

71.5%

- ✓ 「互いの家を行き来する」は都市規模により異なり、大都市・中都市で少なく、小都市・町村部で多い傾向にありました。

都市規模別の「互いの家を行き来する」(n=1,392)



<参考文献>

- 1) 荒井秀典,フレイルの意義.日本老年医学会雑誌(2014)
- 2) Yamada Mら. Predictive Value of Frailty Scores for Healthy Life Expectancy in Community-Dwelling Older Japanese Adults. J Am Med Dir Assoc(2015)
- 3) 総務省「労働力調査」(2021)

2回目の調査もご協力の程よろしくお願いいたします！